



TITLE:

京都大学数理解析研究所図書室とデータベースRIMS PICMSについて (数学分野の情報検索：現状と方策)

AUTHOR(S):

中司, 里美; 一松, 信

CITATION:

中司, 里美 ...[et al]. 京都大学数理解析研究所図書室とデータベースRIMS PICMSについて
(数学分野の情報検索：現状と方策). 数理解析研究所講究録 1981, 433: 41-63

ISSUE DATE:

1981-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/102710>

RIGHT:

京都大学数理解析研究所図書室とデータベース RIMS PICMS について

京大 数理解析 中司里美

一松 信

1 はじめに

京都大学数理解析研究所は、昭和38年全国共同利用の大学附置研究所として創設された。以来全国の数理科学研究者による共同利用研究の機会と場を提供することに努め、研究集会の開催等種々の計画が実施されている。

そして研究所の図書室は研究活動を側面から支えるため、幅広い文献収集を行ない、情報センター的活動の一つとして、非公式資料（レクチャーノート・プレプリント）の全国10大学入手リストの作成配布を続けている。

ここでは数理解析研究所図書室の機能を活動、調査研究とたどって概観し、現在保有する2つのデータベース RIMS（レクチャーノート・プレプリント）PICMS（会議録）の概要、利用法について述べる。

数学分野学術情報組織化の動きの中で、図書館の果たすべ

き役割を再検討するための参考資料となれば幸いである。

2 数理解析研究所図書室の機能

一般に図書室は，“何を集め，いかに整理し，どう使われるか”すなわち，資料の収集，資料管理，利用の3つの側面について，目標方針が明確であることが必要である。数理解析研究所図書室の基本方針および特色は，“資料収集”については数学雑誌バックナンバーの充実，非公式な資料の重視，“資料管理”については早期からの業務への計算機の使用，“利用”については複写利用統計による資料の利用状況調査の実施，とまとめることができる。その根底には，“図書館が Bibliographic World と User との間に積極的に介入する”¹⁾という姿勢があり，この理念に基づいた調査研究としては文献²⁾がある。

上に述べた3つの側面について，これまでの図書室活動をたどってみる。

“資料収集”について：重要な一次資料である雑誌は，新設の資料室というハンディを克服すべくバックナンバー購入，資料交換により収集に努めた。非公式資料とはレクチャーノート，プレプリントを指す。数学レクチャーノートはバックナンバーと同様資料交換チャンネルを確立することにより

入手に努める一方、京都大学理学部数学教室、名古屋大学理学部数学教室からの複写、寄贈によりコレクションの充實をはかった。物理プレプリントの収集と処理のシステムについては文献 3) に詳しい。

“資料管理への計算機の利用”について：計算機の利用は昭和 45 年以降研究所の TOSBAC-3400 を使用して、レクチャーノート全国 10 大学入手リストを作成してきた。これは磁気テープの形で蓄積されてきたが、昭和 54 年以降は京都大学大型計算機センターのディスクに格納され、オンライン検索データベース RIMS として公開されている。業務の機械化については昭和 46 年 2 月「図書館業務機械化システム概要—中間報告」が資料として残っている。また文献 1) にも紹介があるように種々実験が行なわれた。しかし当時のハードウェアの制約もあり、トータルシステムを実現するには至らず、前述レクチャーノート、プレプリント処理以外は雑誌目録の書誌所載情報が機械可読の形で存在しているという状況である。トータルシステムが実現できなかったのは専門的、具体的に様々の要因があると思われるが、ここではそれら进行分析する資料がない。ただコレクションの一部ではあるが、レクチャーノート、プレプリントと会議録をデータベース化し、オンライン検索できる現状を考えると、図

書業務における計算機が、初期の高速プリンターから仮想記憶としての計算機に姿を変えていることが実感できる。

“利用”について：文献がいかに利用されるかについては複写申込みの統計調査が昭和47年頃より始められ、複写のセルフサービスへの移行に伴う中断まで4年間続いた。その調査報告と収集資料の評価の試みについては文献2)と文献4)がある。限られた期間の調査ではあるが、数理科学研究者の文献利用実態の一面を示している。“利用”に附随して図書室に共通の問題として相互協力の側面を見落すことはできない。図書室は一館で自足することはできない。文献は世界中を流通し、情報を求める研究者は世界各地に存在している。各専門図書館は相互に協力し、情報組織化を能率良く行なう必要がある。数理解析研究所において他館との協力のもとに生まれたものにRIMS, PICMSの2つのデータベースがある。概要については次章で述べるが、RIMSはレクチャーノート、プレプリント、PICMSは会議録、の書誌情報データベースである。RIMSは全国10大学レクチャーノート入手リスト作成用に蓄積された磁気テープを変換して作成した。レクチャーノートリスト作成は昭和41年10月日本学術会議数学研究連絡委員会の勧奨により開始されたものである。委員会での討議事項は数理関係図書館の全

国的組織化，文献の相互利用，収集の情報交換のための協力体制確立等であった。それらの実現は15年後の現在未だ今後の課題として残っている。一方PICMSは，昭和51年予算状況から雑誌の購入調整が切実な問題となり，京都大学基礎物理学研究所，同理学部物理教室と図書室関係者の会合を持ったのが契機である。その会合において逐次刊行物の一種としての継続会議録の目録作成を始め，目録は昭和55年基礎物理学研究所より刊行されたが5) その際に収集した数学，情報科学，理論物理学の会議録をデータベース化したものがPICMSである。資料，情報，検索手段の共有のための試みである。

3 数理解析研究所作成のデータベース

当研究所は現在RIMS（レクチャーノート，プレプリント），PICMS（会議録）の2つの書誌情報データベースを持ち，京都大学大型計算機センターの検索システムFAIRSにより公開されている。レクチャーノート，プレプリント，会議録は収集，検索の各段階で扱いにくく，いざれも“問題の図書資料”である。記録をデータベースという新しい器に入れることにより，Bibliographic WorldとUserとの間をよりすみやかに仲介することが出来るものと期待する。

以下各データベースについて概要と検索方法について述べる。FAIRS検索については文献(6)(7)を参照されたい。

3.1 RIMSの概要*

RIMSは前章で述べたようにレクチャーノートの収集情報交換のために蓄積された書誌情報の磁気テープがもとになっている。その構築の経過を図1にあげる。RIMSは図書室でデータを作成し、データベースを更新している。FAIRSとの関係は図2のとおりである。収録件数は昭和56年5月28日現在23,622である。データ項目を図3にあげる。

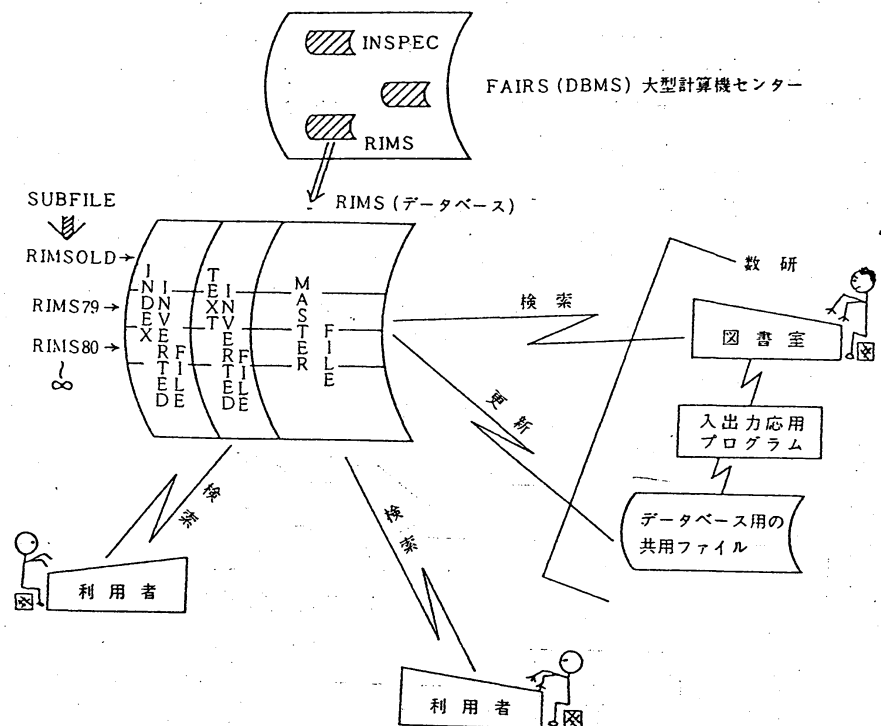


図2: FAIRSにおけるRIMS更新と検索

* RIMSについては文献(8)を参照 図1, 図2は文献(8)から転載した。

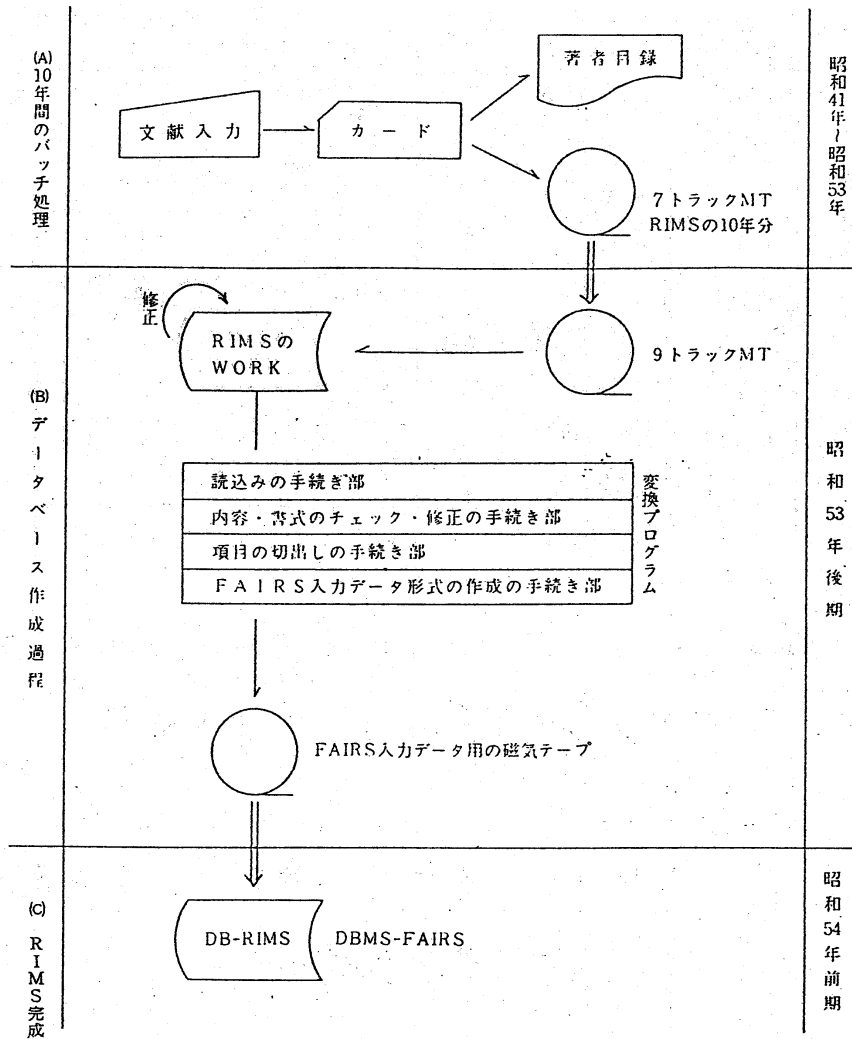


図1 RIMS構築過程

	項目(注1)	説明	出力	備 考
1	= ID	文献番号	○	数字9桁
2	* SR	管理番号	○	IM... (数学) IC... (情報) IP... (物理)
3	= AU	著者	○	姓,名 の形 共著4名まで
4	* TI	書名	○	
5	* SK	キーワード	X	分類番号と他の項目に不適当な事項
6	* UV	大学・機関	○	
7	= YR	発行年	○	数字4桁
8	* RN	レポート番号	○	レポート番号および シーズン・巻数
9	* HL	所蔵大学	○	(注2)
10	* LO	配架場所	X	

注1 = は INDEX 属性の項目であり, 検索に
おいては EQ あるいは = を使用。

* は TEXT 属性の項目であり, 検索に
おいては HAS を使用。

注2 所蔵大学コードは以下のとおり

SU: 数研 TI: 東工大理数

HO: 北大理数 NA: 名大

TO: 東北大 KY: 京大

UT: 東大 OO: 阪大

TE: 東教大 HI: 広大

KU: 九大

図3 RIMS 項目一覧

3.1.1 RIMS 検索事例

検索の方法をコマンド使用法を中心に実例と共に以下に述べる。

著者名は表記を統一していないので BROWSE コマンドで先ず目的の著者を同定するとよい。その例を図4にあげる。Dana Scott の1970年の文献を探した例である

```

BRO AU=SCOTT@

+FRS2001 BROWSING OF ELEMENT 'AU'
W-NO.   RECORDS  VALUE
(*)#00001      7 SCOTT,A.C.
  #00002      4 SCOTT,A.J.
  #00003      3 SCOTT,D.
  #00004     16 SCOTT,D.M.
  #00005      2 SCOTT,DANA
  #00006      1 SCOTT,MELVIN R.
  #00007      2 SCOTT,P.
  #00008      3 SCOTT,S.D.
  #00009      1 SCOTT,W.R.

RS> SEA AU=#3 OR #5
+FRS1001 5 DOCUMENT(S) FOUND
RS> AND YR=1970
+FRS1001 2 DOCUMENT(S) FOUND
RS> OUT

### RIMS ###

#1
  =ID      006400725
  =AU      SCOTT,D.
  *TI      THE LATTICE OF FLOW DIAGRAMS.
  *UU      PRINCETON UNIV.
  =YR      1970
  *HL      SU

#2
  =ID      006401797
  =AU      STRACHEY,C.
           SCOTT,D.
  *TI      MATHEMATICAL SEMANTICS FOR TWO SIMPLE LANGUAGES.
  *UU      PRINCETON UNIV.
  =YR      1970
  *HL      SU

```

図4 RIMS 検索 - 著者名

2語以上のキーワードの組み合わせで探す場合は、隣りあっている場合（キーフレーズ）と同一項目中に表われる場合とで検索方法が異なる。キーフレーズ検索は図5のようにそのままつづればよい。同一項目中に表われる場合は図6のように行なう。

```

RS> SEA TI HAS GO TO
+FRS1001 3 DOCUMENT(S) FOUND
RS> OUT

### R I M S ###

#1
  =ID      006100537
  =AU      ASHCROFT, E.
           MANNA, Z.
  *TI      THE TRANSLATION OF GO TO PROGRAMS TO WHILE PROGRAMS.
  *UU      STANFORD UNIV., 1971
  =VR      1971
  *RN      STAN-CS-71-188
  *HL      SU

#2
  =ID      006203475
  =AU      KNUTH, D. E.

```

図5 R I M S 検索 - キーフレーズ

```

RS> SEA RN HAS MRC WITH 1970
+FRS1001 1 DOCUMENT(S) FOUND
RS> OUT

### R I M S ###

#1
  =ID      007912090
  =AU      BAROODY, A. JAMES JR
           DEWITT, DAVID J.
  *TI      DESIGN AND IMPLEMENTATION OF A DATABASE MANAGEMENT SYSTEM USING
           ABSTRACT DATA TYPES
  *UU      WISCONSIN UNIV. OF (MATHEMATICS RESEARCH CENTER)
  =VR      1979
  *RN      MRC TECHNICAL SUMMARY REPORT #1970
  *HL      SU

```

図6 R I M S 検索 - 同一項目中のキーワード

RIMSにはシソーラスはなく参照のレコードもない。従って検索時に同義語、類語等、異なる形の言葉を想定して検索する必要がある。たとえば図7のようにデータベースという言葉もData BaseとDatabaseという2つの形ではいている。

```
RS> SEA TI HAS DATA BASE
+FRS1001 20 DOCUMENT(S) FOUND
RS> SEA SK HAS DATA BASE
+FRS1011 NO RECORDS FOUND
RS> SEA KW HAS DATA BASE
+FRS1001 20 DOCUMENT(S) FOUND
RS> SEA TI HAS DATABASE
+FRS1001 15 DOCUMENT(S) FOUND
RS> SEA SK HAS DATABASE
+FRS1001 1 DOCUMENT(S) FOUND
RS> SEA KW HAS DATABASE
+FRS1001 16 DOCUMENT(S) FOUND
```

図7 RIMS検索 - キーワードの語形

論文集の書誌データをRIMSで定義した項目におさめるのはやっかいである。図8のように記述する予定である。すなわち項目SKにProceedingsと入力し、十分な書誌情報を書名項目TIに記述しておくという方法である。既存のデータでは検索しにくいので、修正をしなければならぬ。論文集(会議録)データは、PICMSに収録するという方法も考えられる。資料種別別にデータベースがあるというのは決して望ましいことではなく、最終的には1つにまとまるべきものではある。

RS> SEA SK HAS PROCEEDINGS
+FRS1001 3 DOCUMENT(S) FOUND

RS> OUT EL(* SK)

R I M S

#1

=ID 102191126
*SR IM8102-0024
=AU JOURNEES EQUATIONS AUX DERIVEES PARTIELLES, SAINT-JEAN-DE
-MONTs, 1980
*TI JOURNEES "EQUATIONS AUX DERIVEES PARTIELLES" SAINT-JEAN-DE
-MONTs, 2-6 JUIN 1980.
*UU ECOLE POLYTECHNIQUE ; CENTRE DE MATHEMATIQUES (PALAISEAU)
=VR 1980
*HL SU
*SK PROCEEDINGS

#2

=ID 102191129
*SR IM8102-0025
=AU SEMINAIRE D'ANALYSE FONCTIONNELLE, ECOLE POLYTECHNIQUE,
1979-1980
*TI SEMINAIRE D'ANALYSE FONCTIONNELLE, 1979-1980.
*UU ECOLE POLYTECHNIQUE ; CENTRE DE MATHEMATIQUES (PALAISEAU)
=VR 1979
*HL SU
*SK PROCEEDINGS

#3

=ID 102191133
*SR IM8102-0026
=AU SEMINAIRE GOULAOUIC-SCHWARTZ, ECOLE POLYTECHNIQUE, 1979-1980
*TI SEMINAIRE GOULAOUIC-SCHWARTZ, 1979-1980 ; EQUATIONS AUX DERIVEES
PARTIELLES.
*UU ECOLE POLYTECHNIQUE ; CENTRE DE MATHEMATIQUES (PALAISEAU)
=VR 1979
*HL SU
*SK PROCEEDINGS

図8 R I M S 検索 - 論文集の扱い

3.1.2 R I M S の問題点と今後の計画

R I M S のデータにはいくつか問題点がある。第一に収録範囲。すなわちレクチャーノートの範囲について定義があいまいで大学によって報告内容にばらつきがある。第二に重複レコードの存在。R I M S は著者索引用の磁気テープを使用したため、複数著者の場合レコードが重複している。また入

力時点が異なり、編集が不十分であるため、所蔵機関の異なる同一文献のレコードが複数存在する。第三に不十分なあるいは誤ったレコードの存在。記述にミスが多い。また記述マニュアルがなく、データの標準化が行なわれていない。

今後の計画としては以上のような問題点を解決すべく、他大学からの報告の段階をも含めて入力システムの整備を行なう必要がある。記述マニュアルの作成、シリーズ名、大学機関名、地名等の典拠ファイルの作成により、データの標準化をほかていきたい。また既存データを修正しRIMSの信頼性を高める必要がある。ただし修正に関しては量的にみて、実際の作業がどの程度行なえるか疑問である。また本研究集会でも指摘されたが、RIMSが非公式資料のデータベースであるという性格上資料自体の価値が多様であり、古い記録を修正することにどれほどの意味があるかという問題もある。

3.2 PICMSの概要*

PICMSは数学、情報科学、理論物理の継続国際会議の記録を収録したデータベースである。構築の経過を図10にあげる。FAIRSとの関係はRIMSと同様である。昭和56年5月28日現在、会議種類は126、レコード数は

*PICMSについては文献9)10)参照。図10~13は文献10)から転載した。図14~18は文献9)から転載した。

る、098件である。記述は大・小文字を区別している。出力の読みやすさ、校正の能率を考慮したためであるが、入力には手間がかかる。データ項目を図11にあげる。

年 月	初期入力データ (件数)	作業内容 (データ管理) (システム関係)	備考(ファイル リスト)
1979年11月		入力データ準備 材料決定(物理学国際会議録目録原稿、目録カード) 資料単位レコード入力準備(タグ付け)	ソースリスト ソースファイル 入力原稿
1979年12月	215	大型計算機センター共用	入力順確認
1980年1月	0	ファイルにデータエントリー開始	リスト
2月	476	共用ファイルのデータ校正	項目別ブループリント
3月	307	FAIRSⅡ検索と校正	(校正用)
4月	28	論文単位入力準備(目次コピー、タグ付け)	KW検索出力
5月	30	論文単位レコードのデータエントリー	リスト
6月	0		(校正用)
7月	80		論文入力原稿
8月	1,463		
9月	499		
		公開	3,098件 FAIRS 登録・公開

図10 PICMS 構築過程

図 11 PICMS 現行項目一覧

LEVEL M (モノグラフィック=図書)			出 版 地	(×PUL:A25L2)
項 目	ヘ ッ ダ ー	出 版 年	(=PD9:A2109)	
ID	文 献 番 号	= ID	所 蔵 機 関	(=HOLD:A94H2)
会 議 情 報	会 議 名 (含回次,開催地 開催年)	×MN:A3001	登 録 番 号	(=BIHIN:A94N2)
	回 次	(=MNN:A30N2)		
	(開催地)都市	(×ML:A3101)	LEVEL A (アナリティック=論文)	
	(開催地)機関大学	(×MLU:A3102)	項 目	ヘ ッ ダ ー
	開催年・月・日	(×MD:A3201)	ID	文 献 番 号
	開 催 年	(=MD9:A3209)		
出 版 情 報	書 名	×TM:A0901	論 文 著 名	=AID
	シ リ ー ズ 名	×TMS:A09S2	論 文 タ イ ト ル	=AAU:A11A1
	シ リ ー ズ 巻 号	(=VOL:A0501)	記 載 ペ ー ジ	×TA:A0801
	編 者	=AE:A12E1		×APG:A2002
	出 版 事 項 (含出版地, 出 版者,出版年)	×PUB:A2501		

() はNOOUTPUT

= はINDEX 項目

× はTEXT 項目

入力データの校正は大型計算機センターの共用ファイルに
編集時の時点で出力した項目別リスト (図 12) FAIR
RS 検索機能を使用したキーワードリスト (図 13) に
より行なった。

```

48920 -A94N2 2212513 ; RIMS
49070 -A94N2 2504333 ; RIMS
49170 -A94N2 2249524 ; RIMS
49270 -A94N2 224920 ; RIMS
49370 -A94N2 2470048 ; RIMS
49480 -A94N2 1626301 ; RIMS
49590 -A94N2 1559324 1576199 1626300 ; RIMS TOSM
49710 -A94N2 1787746 1791160 ; RIMS TOSM
49840 -A94N2 1845434 1846558 ; RIMS TOSM
49950 -A94N2 2212340 ; RIMS
50020 -A94N2 9999999

```

図 12 PICMS 校正 - 項目別リスト


```

PS> ERD KM HAS AD $10000
+PR32001 BROWSEING OF ELEMENT 'KM'
  M-NO.    RECORDS VALUE
+-----+-----+-----+
* 000001      81 A
  000002      1 AAN
  000003      1 ABERYSTWYTH
  000004      1 ABD
  000005      1 ABSDPTION
  000006      1 ABSTRACT
  000007      2 ABSTRACTS
  000008      3 ACADEMIA
  000009      1 ACADEMIE
  000010     88 ACADEMIC
  000011      2 ACADEMIEI
  000012     14 ACADEMY
  000013      1 ACCELERATED
  000014     14 ACCELERATOR
  000015     43 ACM
  000016      1 ACOUSTICS
  000017     20 ACTA
  000018     16 ACTES
  000019      1 ACTUALITES
  000020      1 ADAPATION
  000021      1 ADAPTIVE
  000022      1 ADAPTIVE
  000023      1 ADELAIDE
  000024      1 ADDRESSES
  000025      3 ADVANCE
  000026     10 ADVANCED
  000027      4 ADVANCES

```

図13 PICMS校正 - キーワードリスト

3.2.1 PICMS 検索事例

検索の方法を実際の引用文献から探した例をもとに説明する。実際によくあることであるが会議に関するところかめか、ているが出版物がどのような形で出ているかは不明、という場合、PICMSの会議に関する項目を中心に検索すると良い。図14 は会議の主題と回次から、図15 は開催地と開催年から検索した例である。

出版事項の一部がわかっている場合の検索例は図16である。

Preparata, F.P., The Medical Axis of a Simple
 Polygon, Proceedings of the Sixth Symposium
on Mathematical Foundations of Computer Science,
 (Sept. 1977), pp.443-450.

① 主題語
 ② 回次

RS> SEA MN HAS MATHEMATICAL FOUNDATIONS WITH COMPUTER SCIENCE ①
 +FRS100I 7 DOCUMENT(S) FOUND
 RS> AND MNN=6 ②
 +FRS100I 1 DOCUMENT(S) FOUND
 RS> OUT EL(MN MNN TM TMS AE PUB)

**** PICMS : PROC INT CONF - MATH SCI ****

#1
 *MN: A3001 Symposium on Mathematical Foundations of Computer Science.
 *MFCS ①
 =MNN: A30N2 ② 6
 *TM: A0901 Mathematical foundations of computer science 1977;
 Proceedings, 6th Symposium, Tatranska Lomnica, September
 5-9, 1977
 *TMS: A09S2 Lecture notes in computer science, 53
 =AE: A12E1 Gruska, J.
 *PUB: A2501 Berlin, Springer-Verlag, 1977

図14 PICMS検索 - 会議名中主題語と回次

Y. Kawamata: Addition formula of logarithmic Kodaira dimension
 for morphisms of relative dimension one, Proc. Alg. Geometry
in Kyoto, 1977.

① ②

RS> SEA ML HAS KYOTO ①
 +FRS100I 9 DOCUMENT(S) FOUND
 RS> AND MD9 = 1977 ②
 +FRS100I 1 DOCUMENT(S) FOUND
 RS> OUT EL(MN ML MD9 TM AE PUB)

① 開催地
 ② 開催年

**** PICMS : PROC INT CONF - MATH SCI ****

#1
 *MN: A3001 International Symposium on Algebraic Geometry.
 *ML: A3101 ① Kyoto.
 =MD9: A3209 ② 1977
 *TM: A0901 Proceedings of the International Symposium on Algebraic
 Geometry, Kyoto, 1977 (A Taniguchi Symposium).
 =AE: A12E1 Nagata, Masayoshi
 *PUB: A2501 Tokyo, Kinokuniya Book-Store, c 1978.

図15 PICMS検索 - 開催地と開催年

Mauss, J. (1974). On first order matching process for singular functions. Proceedings Scheveningen Conf. on Diff. Eq. North-Holland Math. Studies 13.

②

① 出版社

② シーズン数

RS> SEA PUB HAS NORTH HOLLAND①
+FRS100I 78 DOCUMENT(S) FOUND
RS> AND TMS HAS 13 ②
+FRS100I 1 DOCUMENT(S) FOUND
RS> OUT EL(MN TM TMS AE PUB)

**** PICMS : PROC INT CONF - MATH SCI ****

#1

*MN: A3001 Scheveningen Conference on Differential Equations.
*TM: A0901 Spectral theory and asymptotics of differential equations;
proceedings of the Scheveningen Conference on Differential
Equations, The Netherlands, September 3-7, 1973.
*TMS: A09S2 North-Holland Mathematics Studies, 13.
=AE: A12E1 De Hager, E.M. ③
*PUB: A2501 Amsterdam, North-Holland Publishing Company, 1974.

①

図16 PICMS 検索 - 出版事項

RIMSにくらべてPICMSは将来のデータ変換の必要にそなえ、細分化した項目定義を行なった。検索時に煩雑さを感じられる場合があるかもしれないが、FAIRSで自動的に作成するキーワード項目(KW)を使用してTEXT項目すべてを一度に検索できる。図17はKWを使用した場合と項目別に検索した場合とを比較したものである。KWを使用すると検索のステップは多くなるが、単純に網羅的に検索を行なうことができる。

PICMSには論文単位のレコードもある。図18に検索例をあげる。

① RS> SEA KW HAS 1976
+FRS100I 96 DOCUMENT(S) FOUND
② RS> AND KW HAS PROBABILITY
+FRS100I 3 DOCUMENT(S) FOUND
③ RS> AND KW HAS URBANA
+FRS100I 1 DOCUMENT(S) FOUND
RS> OUT EL(ID TM)

**** PICMS : PROC INT CONF - MATH SCI ****

#1
=ID: 7912171355
*TM: A0901 Probability: Proceedings of the symposium held at the Univ. of Illinois, Urbana, 1976.

④ RS> SEA MD9=1976
+FRS100I 60 DOCUMENT(S) FOUND
⑤ RS> AND TM HAS PROBABILITY
+FRS100I 1 DOCUMENT(S) FOUND
RS> OUT EL(ID TM)

**** PICMS : PROC INT CONF - MATH SCI ****

#1
=ID: 7912171355
*TM: A0901 Probability: Proceedings of the symposium held at the Univ. of Illinois, Urbana, 1976.

図17 PICMS検索 - キーワード(KW)と項目別

RS> SEA TA HAS COFINE TOPOLOGY
+FRS100I 1 DOCUMENT(S) FOUND
RS> OUT

**** PICMS : PROC INT CONF - MATH SCI ****

#1
=ID: 8004261054
=AID: 7912171355
=AAU: A11A1 WALSH, JOHN } 論文単位
*TA: A0801 COFINE TOPOLOGY REVISITED
*APG: A2002 131-152

RS> SEA ID=7912171355 ← 上記論文が属する
+FRS100I 1 DOCUMENT(S) FOUND 会議録を知るには
RS> OUT

**** PICMS : PROC INT CONF - MATH SCI ****

#1
=ID: 7912171355
*MN: A3001 Symposium in Pure Mathematics. (American Mathematical Society =AMS)

=BIHIN:A94N2
NASM
UTSN
2326232

RS> SEA AID=7912171355 ← 上記会議録に収録
+FRS100I 16 DOCUMENT(S) FOUND された論文を知るには
RS> OUT

**** PICMS : PROC INT CONF - MATH SCI ****

#1
=ID: 8004261027
=AID: 7912171355
=AAU: A11A1 ANDERSON, R.F.
*TA: A0801 GREY, STEVEN
SMALL RANDOM PERTURBATIONS OF DYNAMICAL SYSTEMS WITH REFLECTING

図18 PICMS検索 - 論文単位

3.2.2. P I C M S の問題点と今後の計画

P I C M S は手持ちの材料をデータベース化した段階であり、まだ未完成の状態である。定義してはいるが未使用の項目を埋めて完全な形にしたい。また市販単行本の場合は既成の書誌データベース L C M A R C のデータ等を利用することも将来的には考えられる。更に会議の情報を組織的に収集し、データとしていく等保守・更新のシステムを確立する方策も考えなければならない。R I M S と同様関係機関との協力体制をつくることが P I C M S においても必要である。

4 おわりに

以上図書室活動とデータベースについては利用法を含めて概要を述べた。図書室は資料、スタッフ、利用者を主な構成要素とする一つのシステムであり、同時に学術情報システムを構成する要素の一つでもある。システムが何よりも役に立つためには各要素の関連づけが正確に行なわれなければならない。そして現場においては理念と行動、調査研究によるフィードバックがたえず繰り返される必要がある。しかし理念の具体化、着想の実現には様々な条件が必要であり、数理解析研究所図書室において、このシステム環境、循環が完全に行なわれたとはいえない。問題点を解消し、課題を解決し

てきたというよりは後に残したまま時代に流されつつあるようにもみえる。あいまいなレビューではあるが、近年特にめまぐるしく変化している環境の中であつたため現在を過去との関連において眺め、理念との照合点検を行なうことが未来の計画を生むと思い、このような形にまとめてみた。

[引用参考文献]

- 1 坂東慧 京都大学数理解析研究所図書室における WIC の概要 - 全国数理科学研究機関を対象として - 大学図書館研究 6 (1975) pp. 121 - 124
- 2 伊藤祐三: 研究図書館をとりまく状況について - 二次資料論への序章 - 東京大学図書館情報学セミナー研究集録 3 (1973 年前・後期) pp. 21 - 56
- 3 谷口敏夫: プレプリントの問題点と処理の実際 情報管理 Vol. 16 No. 6 (1973) pp. 465 - 472
- 4 小川洋一: 数学・物理学における文献利用 - その分析 (利用パターン) とフィードバック - 大学図書館研究 8 (1976) pp. 54 - 70

- 5 物理学国際会議録目録 - 継続会議編 - 1980年版
京都大学基礎物理学研究所 (1980)
- 6 村尾義和他: FAIRISによるデ-タベ-ス検索 (1)
(2) (6) (7) 京都大学大型計算機センタ-
広報 Vol 12 No 3 No 4 (1979) Vol
13 No 1 No 2 (1980)
- 7 利用の手引- デ-タベ-ス検索 (FAIRIS) 編 改
訂版 京都大学大型計算機センタ- (1981)
- 8 谷口敏夫: FAIRISによるデ-タベ-ス検索 (3)
- RIMS 京都大学大型計算機センタ- 広報 Vol
12 No 5 (1979) pp. 408 - 417
- 9 一松信, 中司里美, 谷口敏夫: FAIRISによるデ-
タベ-ス検索 (9) - PICMS 京都大学大型計算
機センタ- 広報 Vol 13 No 5 (1980)
pp. 367 - 377

- 10 中司里美, 一松信: 国際会議録書誌データベース P I
C M S の作成 数学分野の学術情報組織化の研究 昭
和 54, 55 年度文部省科学研究費による試験研究 (1)
研究代表者 山本純恭 (1981) pp. 22-32